

Case Study

支部ケース・スタディ

近畿支部

甲賀忍者の里で折り紙手裏剣ギネス世界一 ～コロナに負けるな!～コロナ禍でできたこと

(株)あいコムこうか

放送制作部 部長

喜多 洋一



制約の多いコロナ禍で考案した10周年記念事業

あいコムこうかは2021年12月1日で会社設立10周年を迎え、社長の号令一下、節目としてお客さま感謝の「何か」を実施するプロジェクトを立ち上げました。当初は盛大にイベントを実施する予定でしたが、コロナウイルスの蔓延が全てを変えてしまいました。

人が集まれない、イベントができない、いったい何ができるのか…。そんな状況下で始まったのが今回の「10周年記念事業 オール甲賀でギネス世界記録に挑戦！」です。

プロジェクトチームでアイデアを練る中で、大事にしたのは「お客さまへの感謝」「地元愛」「年齢や性別を問わない」「甲賀を元気にする取り組み」などでした。その中で生まれたのが、甲賀と言えば“忍者”、そして手裏剣。市民みんなが折り紙で手裏剣を作り、それを持ち寄ってギネス世界記録を更新しよう！というアイデアだったのです。現在の世界記録は愛媛県四国中央市の8,934個。みんなであれば不可能ではない数字、目標を1万個に設定し、企画はスタートしました。

ギネス認定に向けて山積する課題を懸命にクリア

発想は良かったのですが、ギネス申請により当初から膨らんだ予算、コロナ禍での展示会場の決定など問題も山積でした。柄入りの折り紙はダメ、サイズや折り方などを統一すること、その折り方は自己流ではなくしっかり書籍などで紹介されているもの、折り紙協会の協力が必須なことなど、折り紙手裏剣のレギュレーション確定に時間を要しました。展示方法も一点一点が重ならず独立し、確認が必要な場合には触れるようにとの制約がありました。このため、6月頃からスタートしたかった折り紙制作の協力依頼が8～9月までずれ込んでしまい、そこからはバタバタでした。

行政や学校、保育幼稚園、福祉施設、一般企業、予算確保のためのスポンサー様など、思いつく限りの団体にこちらで準備した折り紙をお渡しし、レギュレーションに沿った折り方マニュアルなどもチラシやYouTubeで展開。色々な媒体での告知や商業施設での折り紙体験会も実施。折り紙回収ボックスを協力先へ設置したりもしました。

スタート時の反応は鈍かったのですが、10月末頃には各方面から折り紙手裏剣が集まり、收拾がつかなくなるほどに。協力いただいた皆さんのパワーや思いをしっかりと感じた瞬間でした(ポイント[1])。

さてここからが正念場。時は11月に入り、イベントまで1カ月を切ってお



ギネス認定のレギュレーションに沿った折り紙一式

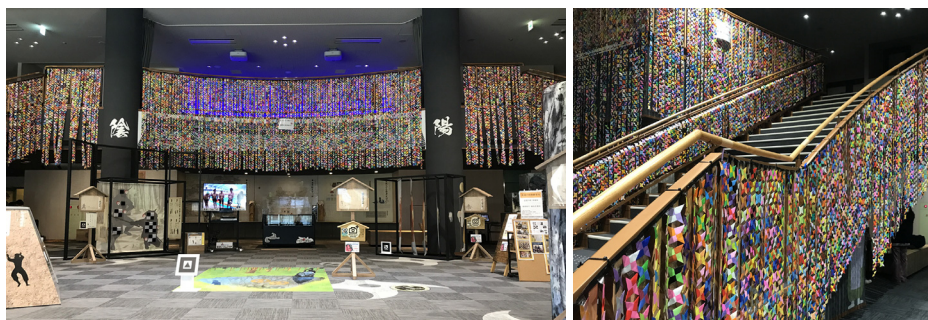


商業施設での折り紙体験会の様子



放課後児童クラブの自作の募集箱

り、あいコム社員たちの結束力を見せる時です。大量に集まった折り紙手裏剣をひとつひとつレギュレーションチェックし、効率的に数多く展示するために10個ずつテープで繋げる作業にかかりました。10年たってもなかなか社員の一体感が乏しいのが当社の悩みだったのですが、部署の垣根も取っ払って、これまでにないくらいのチームワークで取り組みました(これがポイント[2]です)。



「甲賀流リアル忍者館」にディスプレイされた折り紙手裏剣

10周年記念イベント・ギネス認定までの道のり

折り紙手裏剣を展示する会場は、甲賀市の忍者の聖地とも言える「甲賀流リアル忍者館」に決定していましたが、一般の観光客も入場する施設のため、展示する場所や方法についても意識する必要がありました。また、ギネスの認定式も兼ねたお披露目イベントには多くの方に参加いただきたいのですが、会場にはそれほどの余裕がなく、会場の奥にある約500人収容のホールはコロナワクチン接種会場となっており使えない状況でした。しかし、時が我々に味方をしてくれたのか、イベント開催時には接種会場としての利用が終了することになり使用許可が下りたのです。入場者数を絞り万全のコロナ対策は必要ですが、ホールを使えることは大変な追い風となりました。また当日までは開館時間中に手裏剣の展示準備も行って良いと便宜を図っていただき、膨大な数の折り紙手裏剣のディスプレイは着実に進んでいきました。

イベント前日にはギネス公式認定員と折り紙協会の方がお見えになり、コンビで枚数カウントが始まりました。アバウトではなく、しっかり一点一点確実にチェックされ、その様子も全て動画で収めておかないとなりません。確認作業は当日のイベント開始寸前まで続きました。記録が更新できるだけの枚数は集まっていますが、レギュレーション外れのノーカウント品があるため、最終結果を待つまで誰も記録達成かどうかはわからないというスリルに満ちた状況でした。

いよいよイベント当日の日曜日。前日の雨が嘘のように、素晴らしい天気恵まれました。展示会場の甲賀流リアル忍者館は通常営業のため、10時から開館しています。折り紙手裏剣の展示をご存じの方はもちろん、知らずに来館された方もおられ、みな第一声は「おおー」とか「うわー」とか、「すごい」とか(笑)。会場が折り紙手裏剣で埋め尽くされ、それはそれは壮観な景色です。自分の作ったものがないか探したりする方も。

そんな中、13時30分からホールの方では、勇ましい太鼓で「お客さま感謝イベント」がスタート。あいコムこうか社長 中邨雅明の10周年感謝のあいさつ、YouTubeでスポンサー様と一緒に本事業を盛り上げてくれた「10周年応援隊」2組の漫才などでお集まりいただいた多くの方で盛り上がります。



ギネスの認定式も兼ねた10周年記念イベントのポスター



展示会場での2元生中継の様子

そして14時30分からは、生放送がスタート。会場まで足を運べない方々も一緒にギネス世界記録達成の瞬間を見ていただこうと、コミュニティチャンネルで同時中継しました。ホール側では市長などゲストを交えてのトーク、国会議員も駆けつけていただき、展示会場では折り紙のカウントの様子や来場者のインタビューと、2元生中継を実施。番組後半にはカウントが終了したギネス公式認定員がホールへ移動、いよいよ記録達成の可否が発表される瞬間となりました。

集まった手裏剣62,648個、認定数38,105個でギネス達成!

折り紙手裏剣の展示の認定数は38,105個! みごとギネス世界記録を達成しました。

「目指せ1万個!」で始まった企画でしたが、最終的に集まった手裏剣の総数は62,648個にも上りました。会場に展示できる数にはスペースに限りがあり、残りの手裏剣やレギュレーション落ちの手裏剣はホール会場の方に全て展示させていただきました。新記録となったリアル忍者館の展示の方は、会場のご厚意により年内いっぱいまで折り紙手裏剣の展示を継続し、より多くの方にご覧いただくことができました。

後日届いた公式認定証と弊社が独自で作成したパネルを甲賀市と会場へプレゼント、スポンサーや折り紙協力先にもプチパネルのお礼をお渡しし、大変喜んでいただきました。撤収後の折り紙もいろいろな団体から活用したいと要望があり、巢立っていったことを付け加えさせていただきます。

コロナ禍で生まれた、ある意味苦肉の策だった今回の10周年事業ですが、そのおかげで新しい発見や今後のあいコムこうかの進むべき方向が見えてきた気がします。

ここまでの10年は地元の皆さまにあいコムこうかを認めていただく期間だったと思います。あいコムこうかのスローガンは「甲賀を元気に」。ポイント[1]では、年齢や性別を問わず、市民皆さんの地元への思いやパワーを感じることができました。ポイント[2]では、あいコムこうかスタッフのポテンシャルが垣間見えました。この先の10年は、それらをうまく引き上げ、形にしていき、皆さんに必要とっていただけるあいコムこうかを作り上げていく期間ではないかと思っています。



みごとギネス世界記録を達成した瞬間



ギネス認定証を受け取った(株)あいコムこうか 中郷雅明社長



協力先へプレゼントしたプチパネル